

# 真の幸福は

「幸福について」

機嫌がよいこと、丁寧なこと、親切なこと、寛大なこと等々、幸福はつねに外に現われる。

歌わぬ詩人というものは真の詩人でない如く、単に内面的であるというような幸福は真の幸福ではないであろう。幸福は表現的なものである。

鳥の歌うが如くおのづから外に現われて他の人を幸福にするものが真の幸福である。

(三木清著「人生論ノート」より)

「現代の忘れ物」

もし人生を1000としたとき、その999までが不幸せだとしても、最後の一つが幸せだったら、その人の人生は幸せだったと言ってもいいのではないか。真の『看護』とは、「看」の字は「手」と「目」をにぎり(優しい眼差し)、手をにぎり(暖かい手)、言葉を賭ける(優しい言葉)忙しくても心にゆとりと微笑みを忘れない。無駄にすることはできるが無駄なものはない、時間の使い方は命の使い方。嫌な顔をされても微笑み返す、人が幸せになるためにはダブ

ルの損が必要。相手の出方に左右されない主体性のある生き方が大切。今は主体性がなく、したい性ばかり(あれがしたい、これがしたい)

大切なものは目に見えない、肝心なものは心の目で見なければ見えない。目に見えるものは灰になる、愛は目に見えない。やさしくね!やさしくね!やさしいことは強いこと。

(宮城まりこ)

「今日は死ぬのにとってもいい日だ」

生きているものすべてがわたしと調和している。すべての声がわたしと歌をうたっている。すべての美がわたしの目の中で休もうとして来る。

## 続く善意・タイガーマスク

「タイガーマスク」は「巨人の星」や「あしたのジョー」と並んで、梶原一騎の代表作に数えられている。

主人公の伊達直人は孤児院の出身で、動物園の虎の檻の前で中学生3人を倒した素質を見込まれて悪のレスラー養成機関「虎の穴」にスカウト、過酷な特訓の果てに「黄色い悪魔」となって帰国したヒールレスラーだ。

ヒールレスラーでありながらも、「虎の穴」の掟により50%を上納した残りのファイトマネーから、匿名でちびっこハウスへの援助を行っていた。「黄色い悪魔」だったが、満足な援助が出来なくなつたことから上納金さえもちびっこハウスの援助に回す様になつた為、「虎の穴」から裏切り

すべての悪い考えは立ち去っていった

## 愛は心から目

今日は死ぬのにとってもいい日だ  
わたしの大地はわたしを穩

者とみなされた「黄色い悪魔」は次々送られてくる刺客と戦う事になった。「虎の穴」から裏切り者とみなされたことを契機に、悪役から正統派へと転向は果たした伊達直人は、必殺技を開発して次々と襲いかかる刺客を返り討ちにしていったが、悪役時代のファイトスタイルが抜けきれずに反則に反則で返す事もあった為、自らにしみこんだ悪役スタイルに苦悩する日々を過ごした・・・。

俺がなぜ勝ち目のない試合にみんなを呼んだかって? みんなが大きくなつて世の中へ出た時、いくら全力をつくしても幸せになれるとは限らない。世の中はそんなに甘くない。しかしそれでも全力をつくすべきだ。それが人間の生きる道だ。伊達直人

やかに取り囲んでいる  
畑には最後の鋤を入れてしまった

わたしの家は 笑い声に満ちている  
家に子供たちが帰ってきた  
うん 今日死ぬのにとってもいい日だ

ナンシー・ウッド

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

# 事務所便り

2011年1月20日(木) NO 165

地域から明るい未来を作ろう